

日植調委託試験成績(抜粋)

試験年度	平成8年度					平成9年度				
試験場所	宇都宮大学	佐野ゴルフクラブ	西日本グリーン研究所	札幌国際カントリークラブ	道立道南農業試験場	琵琶湖カントリー倶楽部	東日本グリーン研究所	浜松シーサイドゴルフクラブ	札幌国際カントリークラブ	
土壌条件	埴壤土	壤土	花崗岩・砂壤土	火山灰土	沖積土・壤土	砂壤土	壤土	砂壤土	粘土質	
芝種類	ノシバ	ノシバ	コウライシバ	ケンタッキーブルーグラス	ケンタッキーブルーグラス	ノシバ	コウライシバ	コウライシバ	ケンタッキーブルーグラス ペレニアルライグラス	
栽培様式 造成年数	ナーセリー 張芝、2年	ナーセリー ラフに準ずる 4年	ターフを形成した刈高 12mmの芝地 20年以上	コース内ラフ 張芝 27年	張芝 2年	ラフ 張芝 7年	フェアウェイに準ずる 15mm高刈込 11年	ナーセリー セミラフに準ずる 張芝、11年	コース練習場 播種 8年	
処理方法 処理時の状況	茎葉処理 芝生育期 雑草生育初期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育後期 雑草発生初期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育期 雑草生育初期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 展着剤なし	茎葉処理 芝生育終期 雑草生育期 0.25m ² /m ² 区のみ グラミンS4,000倍加用	茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 アブローチB1 1,000倍加用	
散布水量(m ² /m ²)	200	200	200	150	200	200	200	200	200	
処理日・調査日 ()は処理後日数	6/24~7/28 (34)	10/30~12/26 (57)	3/4~4/23 (50)	5/27~8/20 (85)	9/17~10/27 (40)	6/12~7/14 (32)	5/22~7/16 (55)	11/25~12/25 (30)	10/4~4/30 (208)	
処理量 (m ² /m ²)	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	0.25 0.375 0.5 A剤 0.75 無処理	
雑草残草量 (無処理区 g/m ² 処理区 %)	シロザ 0 0 0 0 (3.5)	チドメグサ 10.7 7.1 3.6 7.1 (2.8)	マメカミツレ 20 7 5 (129.8)	タンポポ 0 7 0 27 (15)	ヒメスライバ 0 0 0 0 (145)	イヌタデ 2.3 0 0 0 (21.8)	コニシキソウ 37.9 29.9 6.9 10.3 (8.7)	ハコベ 0 0 0 0 (20.3)	シロツメクサ 0 0 0 0 (22)	
	コセンダングサ 0 0 0 0 (27.3)	シロツメクサ 0 0 0 0 (1.7)	オランダミミナグサ 6 4 4 4 (19.7)	シロツメクサ 4 0 0 0 (90)	タンポポ 6 0 0 0 (68)	コニシキソウ 8.7 3.3 0 0 (4.6)	ブタクサ 0 0 0 0 (8.1)	オランダミミナグサ 0 0 0 0 (13.9)	タンポポ 12 6 0 26 (5)	
	シロツメクサ 6.4 0 0 13.2 (31.5)	オオアレチノギク 0 0 0 0 (1.9)	アレチノギク 68 7 8 6 (16.4)	チドメグサ 27 11 0 6 (95)	スギナ 0 0 0 0 (32)	ヤハズソウ 98 86 91 100 (214)	ヤハズソウ 0 0 0 0 (9.4)	オオアレチノギク 0 0 0 0 (5.6)	ヒメジョオン 5 11 0 17 (1.7)	
	チドメグサ 11 0 0 5.3 (21)	セイヨウタンポポ 3.8 0 0 0 (8)	その他 52 15 5 9 (14.9)	—	—	チドメグサ 15 10 6.6 11 (428)	カタバミ 26.1 13.0 9.6 22.6 (11.5)	シロツメクサ 0 0 0 0 (10.9)	—	
	—	—	—	—	—	シロツメクサ 0 0 0 25.8 (62.8)	セイヨウタンポポ 20 0 0 0 (12)	チドメグサ 0 0 0 0 (7.6)	—	
	—	—	—	—	—	—	—	チチコグサ 2 0 0 3 (17.2)	—	
	総計 5.2 0 0 6.2 (83.3)	総計 4.2 1.4 0.7 7.1 (14.4)	総計 25 7 5 7 (180.3)	総計 16 6 0 6 (185)	総計 6 2 0 0 (245)	総計 37.7 30.9 30.4 38.1 (731.2)	総計 13.7 7.0 2.4 4.9 (71.6)	総計 0 0 0 1 (75.5)	総計 2.4 1.7 0 5.5 (28.7)	
薬害	なし なし 小(葉先枯) 小(赤黄色化)	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	なし なし なし なし	

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	メコプロップP カリウム塩を含む 農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
日本芝 西洋芝 (ブルーグラス)	—	一年生及び 多年生 広葉雑草	芝生育期 (雑草生育期)	250~500m ² /10a	200 ² /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
樹木等	公園、堤とう、庭園、 運動場、道路、駐車場、 宅地、のり面、鉄道等	雑草生育期 (草丈30cm以下)		350~700m ² /10a	100~200 ² /10a		植栽地を除く 樹木等の周辺地 に雑草茎葉散布	

使用上の注意事項

●使用前にはラベルをよくお読みください。●ラベルの記載事項以外のことには使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。

- 生育期の広葉雑草に有効なので雑草の発生後茎葉に均一に散布して下さい。

●散布直後の降雨は効果を減ずるので天候を見極めてから散布して下さい。

●低温時(10℃以下)の散布は、効果が劣ることがあるので使用を避けて下さい。

●本剤の使用により芝に黄変などの薬害を生ずることもあるが、やがて回復し、その後の生育には影響は見られていない。
- 重複散布をすると薬害を生じるおそれがあるので重複散布を避けて下さい。

●周辺の植物にかかると薬害を生じるので、有用植物が付近にある場合は
かからないよう注意して散布して下さい。

●本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう
注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を
受けるようにして下さい。

株式会社 理研グリーン

〒110-0005 東京都台東区上野2-12-20 NDKロータスビル3F TEL.03-3833-6321(代)
札幌駐在／011-756-3891 仙台支店／022-222-9599 東京支店／03-3835-8134
静岡支店／054-283-5555 名古屋支店／052-262-2861 大阪支店／06-6871-1691
福岡営業所／092-752-8391 グリーン研究所／0538-58-1282
福田工場／0538-55-5108
http://www.rikengreen.co.jp

農林水産省登録
第20922号



スコリテック[®]液剤
低薬量で優れた効果を発揮する
茎葉処理タイプの
新ホルモン型芝生用除草剤。

スコリテック[®]液剤



1ℓ×10本入り

©：ニューファム(株)登録商標

少量で最大の効果を発揮、優しく、 確実にフェアウェイを美しく守るスコリテック。

スコリテック液剤は、茎葉処理タイプの新しいホルモン型芝生用除草剤です。本剤は散布適期幅が初春から晩秋までと広く、魚毒性が低く、低薬量で使いやすい、自然環境を大切にしたい新しい発想の除草剤です。また、芝生の広葉雑草防除剤として従来の薬剤に比べて使用散布薬量を大きく削減でき、さらに廃棄物の削減なども可能になります。

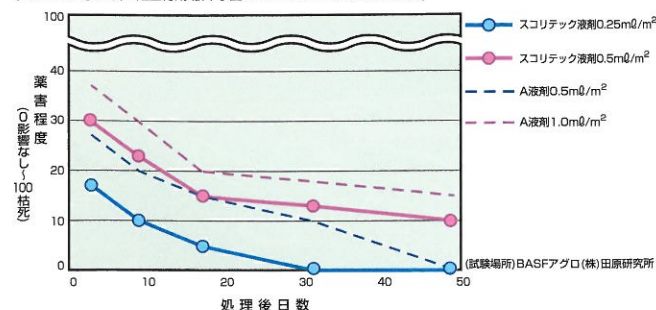
特長

- **広葉雑草全般に優れた茎葉処理効果**
生育初期から生育期の広葉雑草に優れた殺草活性があります。
- **広い散布適期幅**
生育期の雑草が対象の散布適期幅が広い薬剤です。初春から晩秋まで散布できます。
- **雑草全体を枯死させる**
植物体内の移行性に優れ、地上部・根部の全体を枯殺します。
- **スギナに優れた効果**
難防除雑草のスギナやチドメグサに対しても優れた効果を示します。
- **芝生に対する選択性**
コウライシバ・ノシバ・ブルーグラスに対して高い選択性が確認されています。
- **空容器の処分問題を軽減**
慣行薬剤と比較して少ない薬量で効果がありますので、空容器の処分量を大幅に軽減できます。
- **環境への負荷が少ない**
人畜毒性は普通物、魚毒性はA類相当に分類されていますので安全性が高く、土壌中では速やかに水と二酸化炭素まで分解するので環境に対する影響が少ないといえます。

芝に対する選択性(コウライシバに対する影響)

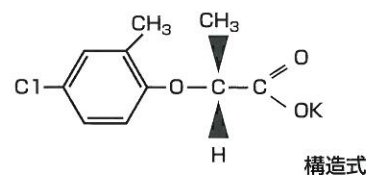
スコリテック液剤は、従来の茎葉処理タイプのホルモン型除草剤と比べて、高温期の散布試験において芝に対する影響が少なく、選択性に優れています。

コウライシバに対する影響
(散布日：9月18日・芝生育期 散布水量：200m³/m² 展着剤加用なし)



成分・性状・物理化学的性質

商品名：スコリテック液剤
種類名：メコプロップPカリウム塩液剤
有効成分：メコプロップPカリウム・・・52.0%
剤型：液剤
性状：褐色澄明水溶性液体
一般名：メコプロップP(ISO一般名)
化学式：(R)-2-(4-クロロ-*o*-トリルオキシ)プロピオン酸カリウム



人畜・有用生物に対する影響

人畜毒性は普通物、魚毒性はA類に分類される安全性の高い薬剤です。

人畜毒性：普通物 魚毒性：A類

急性経口毒性	ラット	LD ₅₀ ♂♀	500~2,000mg/kg
コイ	LC ₅₀ (96時間)	1,000mg/ℓ	以上
オオミジンコ	EC ₅₀ (48時間)	1,000mg/ℓ	以上

土壌中の消長

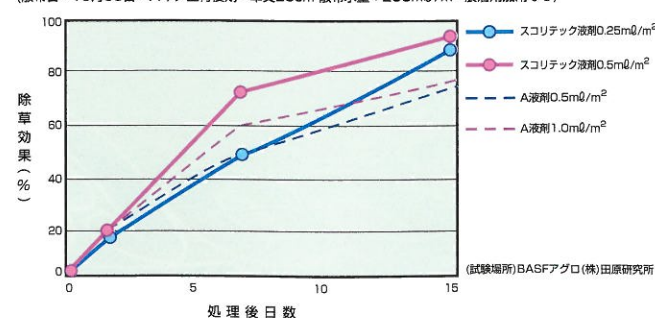
土壌中では速やかに水と二酸化炭素まで分解していき、環境に対して負荷の少ない薬剤です。

土壌中半減期(圃場)：約2~3.5日

除草効果(スギナに対する効果)

スコリテック液剤のスギナに対する除草効果は、従来の茎葉処理タイプのホルモン型除草剤と比べて発現が速く優れています。

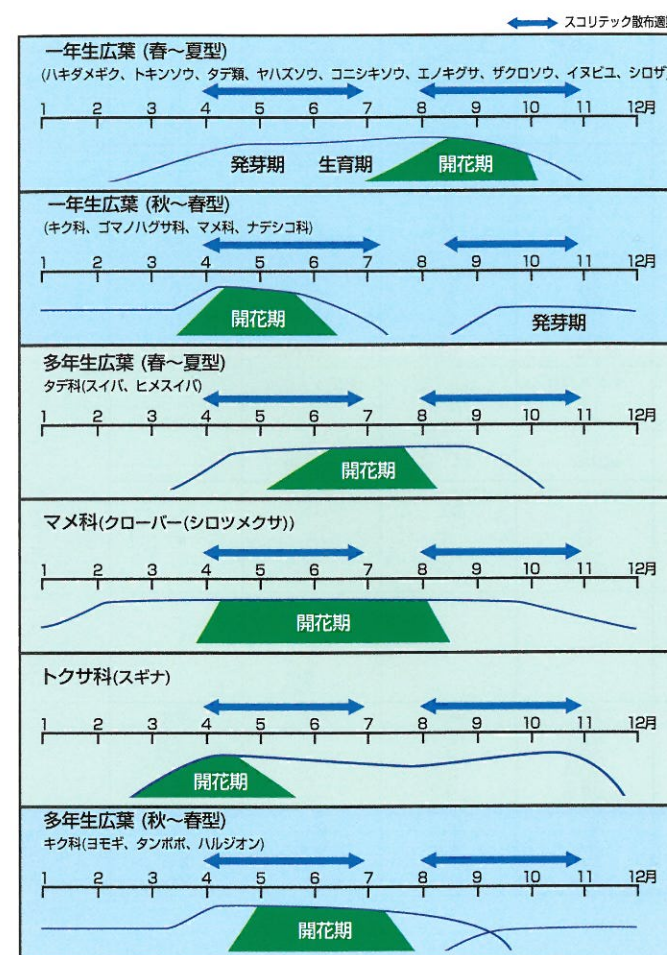
スギナに対する効果
(散布日：10月30日・スギナ生育後期・草丈20cm 散布水量：200m³/m² 展着剤加用なし)



効果的な使い方

スコリテック液剤は、夏期高温時や冬期を除く雑草の生育期ならいつでも使用できます。生育期の広葉雑草に有効なので、雑草の発生後茎葉に均一に散布して下さい。散布後1日間ぐらいいは雨のなさそうな天候を見極め、雑草が乾いている時に散布して下さい。スコリテック液剤は、雑草に対して優れた茎葉処理効果を示しますが土壌処理効果は劣りますので、本剤の散布後に広葉雑草の後次発生が予想されるところでは、ダブルアップDGなどの土壌処理効果のある除草剤と混用すると効果的です。

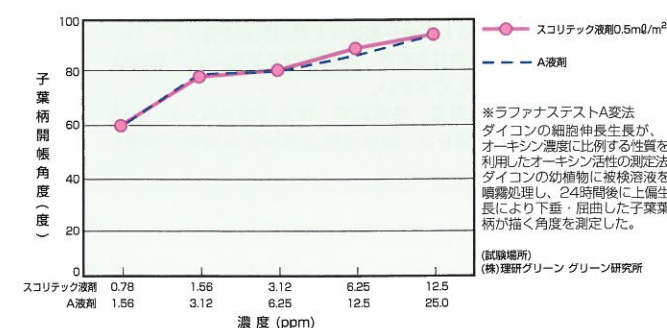
雑草別の散布適期



オーキシシン活性比較(ラファナステストA変法による)

スコリテック液剤は、従来のホルモンタイプの茎葉処理型除草剤(A液剤)と比べて、半分の濃度で同等のオーキシシン活性があります。

オーキシシン活性比較(ラファナステストA変法による)



殺草スペクトラム

◎：効果高い ○：効果あり △：効果不十分 ×：効果なし

		スコリテック液剤		
		0.25m ³ /m ²	0.375m ³ /m ²	0.5m ³ /m ²
キク科	オオアレチノギク	◎	◎	◎
	アレチノギク	◎	◎	◎
	ヒメムカシヨモギ	○	◎	◎
	ハルジオン	○	○~◎	◎
	ヒメジョオン	○~◎	○~◎	◎
	ノゲシ	○~◎	◎	◎
	ノボロギク	◎	◎	◎
	オニタビラコ	○	◎	◎
	ブタクサ	◎	◎	◎
	ハハコグサ	○	○	◎
	チチコグサ	◎	◎	◎
	ウラボシチチコグサ	◎	◎	◎
マメ科	タンポポ	○	○~◎	◎
	コセンダングサ	◎	◎	◎
	ブタナ	○	○~◎	◎
	シロツメクサ	◎	◎	◎
	カラスノエンドウ	◎	◎	◎
オオバコ科	オオバコ	○	◎	◎
	オオイヌノフグリ	◎	◎	◎
ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	○	◎	◎
	ホトケノザ	○	○	◎
カタバミ科	カタバミ	△	△	△~○
アブラナ科	ナズナ	○~◎	◎	◎
	タネツケバナ	◎	◎	◎
	スカシタゴボウ	○	◎	◎
タデ科	イヌタデ	○	○	◎
	ヒメスイバ	○	◎	◎
ナデシコ科	ツメクサ	○	◎	◎
	オランダミミナグサ	◎	◎	◎
	ノミノフスマ	◎	◎	◎
ヒコ科	ハコベ	◎	◎	◎
	アオビユ	○	◎	◎
セリ科	チドメグサ	◎	◎	◎
	ノチドメ	△	○	◎
	オオチドメ	△	○	◎
スベリヒコ科	スベリヒコ	○	◎	◎
トウダイグサ科	コニシキソウ	△	△~○	○~◎
	カヤツリグサ	◎	◎	◎
カヤツリグサ科	コゴメカヤツリ	◎	◎	◎
	ヒメクガ	△	△	○
	ハマスゲ	×	△	△
ツユクサ科	イボクサ	◎	◎	◎
トクサ科	スギナ	◎	◎	◎
サクラソウ科	コナスビ	○	◎	◎
アカバナ科	アレチマツヨイグサ	◎	◎	◎
ムラサキ科	キュウリグサ	◎	◎	◎
アカザ科	シロザ	◎	◎	◎

(日植調委託試験及び社内試験から)

周辺樹木に対する影響

本剤の散布液が、周辺樹木の茎葉部にかかった場合には強い葉害症状がありますので、散布の際に飛散しないよう注意してください。

※散布液を樹木の茎葉部に直接散布 試験場所：日本曹達(株)小田原研究所

	薬量0.5m ³ /m ² ※	薬量1.0m ³ /m ² ※
コノテガシワ (ヒノキ科)	強	強
サツキ (ツツジ科)	強	強
ツツジ (ツツジ科)	強	強
カナメモチ (バラ科)	強	強
サンゴジュ (スイカズラ科)	強	強